

今後の議論の進め方について（案）

- 1 個別課題に関する検討を行い、その議論を通じてヒト胚の取扱いに関する基本的考え方を見直しについても検討する。
- 2 個別課題のうち、先ず動物性集合胚を利用した研究について検討を進める。次いで、iPS細胞等から作成したヒト生殖細胞によるヒト胚作成等の課題についても研究の進展状況に応じて適時検討する。
- 3 基礎研究の段階にとどまらず、将来の臨床応用も見据えて倫理上の課題について検討する。
- 4 研究の進展を踏まえて議論を加速し、対応を急ぐべきものについては速やかに結論を出すことを目指す。
- 5 総合科学技術会議が個別課題への対応について基本原則を示し、これを踏まえて関係省庁が具体的な対応策について検討できるようにする。
- 6 ヒト胚以外の生命倫理上の課題についても、総合科学技術会議で検討すべきものであれば、積極的に議論する。
- 7 上記1～6の検討を踏まえて、今後の制度の在り方についても議論する。

検討スケジュール（案）

第70回（平成24年12月6日）

今後の議論の進め方・検討スケジュールについて
動物性集合胚を利用した研究について

第71回

動物性集合胚を利用した研究について

以後、1～2か月に1回開催し、論点ごとの議論、外部有識者等のヒアリングを実施する。

平成25年内を目途に、個別課題（動物性集合胚を利用した研究、iPS細胞等から作成したヒト生殖細胞によるヒト胚作成、新たなヒト胚作成技術によるヒト胚作成及び多能性幹細胞の樹立等）とヒト胚の取扱いに関する基本的考え方の見直しについて議論を行い、中間とりまとめを目指す。その間、必要に応じて適宜、個別課題ごとの検討結果を整理公表する。

その後、さらに本専門調査会で議論し、パブリックコメント等を経て報告書を取りまとめる。